

第3回在宅医療・介護連携推進事業会議 議事録

日 時 平成30年6月28日(木) 午後1時30分より

会 場 江戸川区医師会館 2階 理事会室

出席者 在宅医療・介護連携推進事業会議 委員長 小川勝

(江戸川区介護保健施設連絡会)

江戸川区歯科医師会 広瀬芳之

江戸川区薬剤師会 大林武史、

東京都医療社会事業協会 藤井かおる

江戸川区ケアマネージャー協会 内藤修、栗岡清秀

東京都看護協会 佐々木誠子

江戸川区訪問介護事業連絡会 江面秀樹

江戸川区地域密着型サービス事業者連絡会 梅澤宗一郎

江戸川区医師会 津田隆

地域保健課長 深井園子、健康推進課長 塚田久恵

介護保険課長 坂本崇一郎、事業者調整係長 本城智也、同主査大島

訪問看護ステーション杉浦、熟年相談室 白井、医師会事務局：柴、阿部、愛木記

- 決定事項** : 第一回 口腔ケア 担当：江戸川区歯科医師会
第二回 服薬指導 担当：江戸川区薬剤師会
第三回 入退院支援 担当：東京都医療社会事業協会
第四回 在宅療養の現場から 担当：訪問看護ステーション連絡会
前半は看護師、後半は安保先生（予定）にお願いします。
第五回 認知症 担当：江戸川区医師会 小川 勝
区民向け講演会の前半は基調講演、後半はシンポジウム形式
シンポジウム事例内容 担当：熟年相談室 白井
シンポジウム参加者ピックアップ 担当：江戸川区役所
シンポジウムの介護事業者ピックアップ 担当：訪問介護事業連絡会
区民向け講演会 閉会式 担当：浅岡先生

- ・区民向け講演会に参加していない職種も情報発信のため、資料を提出する。
- ・全ての研修に江戸川区での取り組みに関する情報を入れる。

- ・配布資料は持ち帰れるよう「A4×2ファイル両面」の規格に統一する。
- ・江戸川区医師会のHPに載っている内容を情報提供としてまとめる。(医師会事務局)
- ・熟年相談室も「認知症ホットライン」などの情報を提供する。
- ・ケアマネ協会には研修前に研修の内容や講師、選定の理由を提出してもらう。
江戸川区の取り組み内容を団体ごとに研修に反映する。
- ・研修後のアンケートなどをまとめて、会議で報告していただく。

議 題

小川委員長より、医師会の担当理事が塚本先生から津田先生に変更になったことを報告、新任の津田隆理事より挨拶があった。

1. 前回の議事の確認

配布した前回の議事録を確認した。(医師会ホームページにて掲載済み。)

2. 平成30年度在宅医療・介護連携研修企画書(案)について

(小川委員長) ケアマネ研修における研修企画書案の医療的部分(全5回)に関しては、この会議体で担当講師を検討することで進んで来ました。在宅医療・介護連携企画書案に内容をまとめました。第一回は11月の「口腔ケア」の菊谷武先生ですが、了承は得られましたか?

(広瀬) はい、11月27日(火)午後6時30分の開催を予定しています。

(小川委員長) 菊谷先生は幅広くご活躍されている先生ですが、実際には江戸川区の取り組み内容をご存知ないので、歯科医師会の先生方に取り組み内容を補足して頂くようお願いします。

(広瀬) 時間配分ですが2時間のうち、質疑応答はどれ位でしょうか?

(内藤) 5分~10分位を予定しています。先生のお話を聞きたい方が多いので。

(小川委員長) 次に、第二回は12月に行う「服薬指導」です。「在宅医療における薬剤師の役割」ということで、薬剤師会にお願いしたいと思います。ここでも江戸川区での取り組み、かかりつけ薬剤師や相談などの内容もお願いします。

(大林) はい、講師に関しては外部の有力な人ではなく、かかりつけ薬剤師としてバランスの取れた方を選びたいと考えています。

(小川委員長) 研修会全体の話ですが、配布資料はプリントアウトして持ち帰れるように

して下さい。資料の規格は「A4×2 ファイル両面」でお願いします。見やすいほうがいいと思いますので。

次に1月に行う第三回の「入退院時支援」ですが「病院から在宅への意向、入退院支援や調整について」は、MSWの藤井さんをお願いしてあります。講師はまだ決まっていますか？ 病院の規格が違う所もありますし、2時間を区切って講師が代わっても構いません。

そして2月の第四回、「在宅療養の現場から」ですが「在宅医療における医師と看護師の役割」ということで、前半40分・後半40分に分けて、前半は訪問看護師をお願いします。後半は在宅医療をやっている安部先生をお願いしたいと思います。実際、在宅医療でどのようなことを行なっているのか、看取りも含めて項目ごとの実体験も含めて、介護の現場において医師と看護スタッフの中間的な存在を訪問看護師が担っていることを直に聞く方が馴染みやすいと思います。

まとめて江戸川区医師会でも介護事業所向け、区民向けに対して広報活動をしていますので、HPに載っている内容や活動などの周知に関しても情報提供出来ればと思っています。「もの忘れ相談医」や「往診医・訪問診療医」、熟年相談室の「認知症ホットライン」など様々な事業を行なっていますので、事務局はまとめて皆さんに提供できるようにしてください。医師会の熟年相談室も情報提供できる資料などを用意して下さい。

3月に行なう第五回の認知症「認知症ケアに必要な知識」は委員長の小川勝が担当し、今回は基礎知識をお話します。主任ケアマネの更新などの推薦に関連する研修となるので、先ずは基本のところを勉強してもらい、認知症はどういうもので、認知症の方への係わり、お薬はどういったものを使っているのか、在宅に関わる内容について話をしていきたいと思います。江戸川区ではどう行なっているのかなど、四回目と被る部分もあると思いますが、基礎といってもかなりあるので、私が知る限りで実態に即した話をしていきます。テーマはこのままで、内容について他に入れたい要素などはあればどうぞ。

（梅澤）第四回の在宅医療の中で看護師の役割というテーマではありつつも、この会議が在宅医療・介護連携研修企画と銘打っている中で、ケアマネさんたちがどう絡んでいるのか、訪問看護や訪問入浴など関わっている様々な職種の人たちが見えるようなそんな企画はどうでしょうか？そういうものを盛り込むことで在宅医療を支える人たちがチームとしてしっかり見えてくることで、地域の人たちが医療と介護の連携とはこういうものなんだな、と見えるようになるのではないかと。

（小川委員長）在宅で働いている方たちの目線で研修を行なえるよう内容を盛り込んでい

ただきたいですね。他にありますか？

(藤井) 入退院支援のところで、カンファレンスで多職種連携の例になるようなものを盛り込んでいきたいと思っています。

(小川委員長) いいと思います。実際ケアマネさんのほうでは入退院支援など、こういった内容が聞きたいと思われませんか？

(内藤) やはり在宅にどう繋げるかが大きな部分ですが、入退院の支援の意味がわかっていなかったり、理解が不十分ながらも協力的な事業所もあるので「介護連絡ノート」の活用の仕方など、これからも取組んでいかなければいけないと思っています。

(栗岡) 私としては病院の体系や機能がわけられてきており、現場のヘルパーさんやケアマネにあまり浸透していない部分があるので、知っておくと利用者さんに助言や色んな部分で幅が広がると思うのでその辺りを周知してもらえたらと思います。

(藤井) 病院の体系や機能はどんどん変わってしまうので、違いがあることだけでも知ってもらえるといいです。

(江面) 現場だけでなく、キーになるサービス提供責任者に対してピックアップしてもらえるところも分かり易いです。

(小川委員長) サービス提供責任者はケアマネと同等の仕事だと認識しています。ヘルパーさんのまとめ役であり、ケアマネさんを繋ぐものなのでぜひピックアップしてもらいたいですね。

(広瀬) 理想と現実がわかると話をしやすい。現実的にできることを教えてもらえたら。

(内藤) ケアマネとしても口腔ケアは重要だと思っているが、優先順位としてどうしても後回しになってしまう。本人自身も口腔ケアに関して知識がなく、理解していないと紹介できないなどがある。協会としてもジレンマを抱えている。

(広瀬) 利用者さんの方から口腔ケアを希望してくることが少ない。明らかな徴候がなければ予防という状態ではなかなか入れてもらえない。「そもそもの口腔が大事だ」という基礎知識がない。どうしたら口腔ケアの重要性を伝えられるか？

(内藤) 口腔ケアが大事です、と伝わるようなものを何か作っていただければ、案内のときに配布したりすることは可能です。興味を持っている方は多い。

(杉浦) 日常的にヘルパーさんが口腔ケアを行なう方法に困っている。歯医者さんが入るのも必要ですが、要介護4、5の方の寝たきりの方に毎日口腔ケアを行なうのは具体的にどうするか。吸引できない。看護師がいるときに歯ブラシでやって綺麗に吸引をすることはできるけれど、吸引器がなかったりするので、実際にできる具体的な方法を知りたい。

(坂本) 概ねケアマネさんや、介護事業所の方が対象となりますので、医療側からこういった支援ができるという側面をわかっていただき、医療と介護の連携に繋がるようそれぞれの協会を考えていただきたい。今までやったことのない研修なので、それぞれ大変かとは思いますが、楽しみにしています。

(小川委員長) ケアマネさんが中心になってそれぞれに情報を提供して流れを作ってもらいたい。サービス担当者会議等で指示してもらい、主眼はケアマネさんとして話をして欲しいです。

3. 平成 30 年度在宅医療介護連携推進事業「区民向け講演会企画書 (案)」について

前半は基調講演、後半はシンポジウム形式を予定している。区の現状と課題を知ってもらわなくてはいけない。地域のリーダー的な役割を担っている方にターゲットを絞りたい。

(小川委員長) シンポジウムにテーマを設けて事例検討を話し合う。実際に地域ケア会議や地域連携会議などで認知症の徘徊や虐待など話し合っ解決している場があるので、「場」というものを区民の方に周知してもらいたい。介護サービスだけでは解決ができない。民生委員の見守りや情報提供、地域のボランティアなどの力により解決に向かっているということを全体に知ってもらいたい。そういった事例を各参加者で行なっていただきたい。登壇者は 5, 6 人で在宅が主になるのでケアマネさんを中心に情報提供として包括、医療で訪問看護、それ以外の分野に関してはその場にいる医療職や介護職の方が代弁するという形で進行していく予定です。大筋を決めて、会場で話してくれる人がいてもいい。地域の事例の案としては自助互助、介護事業所でなんとかできるようなものを。

閉会式は浅岡先生を予定しています。熟年しあわせ計画や介護事業計画で色々区民の声を聞いて区民目線がわかっていて、皆さんの事情も理解している方です。

テーマは区民の方がわかりやすい言葉で、また次回皆さんの意見を聞きながら決めたいと思います。

シンポジウムの内容・事例は熟年相談室にお願いします。

(臼井) 皆さんで話し合えるような事例を考えます。

(小川委員長) 独居や老老介護、要介護 1 で認知症など介護事業サービスではまかないきれない、地域の方々、町会の方々の情報の連携の元、医療的な診断を必要とするような事例はどうでしょう。

(坂本) この講演会に来られる方は地域の見守りの担い手になる方々なので、実際に見守

るとしたら、と考えられるような事例だといっています。

(大林) ここでは参加していない職種、薬剤師とかもどのようなことができるのか、まずきっかけになるような資料1枚でもご案内できたら。

(小川委員長) 参加している職種が、他の職種を代替して情報を発信していけるよう、全体が動けるように考えていきたいですね。

(藤井) 今回でなくてもいいのですが、ちょっと転んで救急車で運ばれる、救急要請で元氣そうに見えても重症だったといったことも良くあることなので、在宅を支えるための救急医療も情報発信していただけたら。盛り込むのが難しければ会場のフロアにポスター掲示などで待合の時間に見ていただくなどの方法もあるかもしれません。

(小川委員長) なるべく皆さんの情報を発信していきたいので、資料など考えてください。そして参加者の動員に関しては区にお願いします。質問は難しいので受け付けず、来場者に振るのもいいと思います。個人的には民生委員さんの意見もお聞きしたいです。

(坂本) シンポジウムの介護事業者はどの職種になりますか？

(小川委員長) 江面さんの所からヘルパーさんをお願いします。一応このような形で決めて、全体の情報などを入れていけるように作っていきますので、次回、事例をお願いします。

(坂本) まだ7、8、9月とありますので、7月26日で大体概要が決まっていれば、8月から具体的な流れや取りまとめなどを考えて動いていきます。9月にシンポジストも決まって流れを決められるかな、といったところです。

(小川委員長) 区民向けの講演会はこの方向で決めていただきたいと思います。

4. その他

(内藤) 追加の資料になりますが、昨日船堀タワーホールにて行なわれた今年度第1回のケアマネ研修会のアンケート結果になります。昨日の今日なのでまだ全ては出ていませんが、参加率も良いほうだったと思います。こちらも主任ケアマネ対象の研修になります。次回は7月12日、障害者福祉に関して上智大学の犬塚先生を予定しています。介護保険の連携も含めてお話いただきます。

(小川委員長) 事前にどのような先生がどういう話をするということを提出していただき、終わったあとはアンケート等、こういった形にまとめて下さい。企画段階の研修の内容を会議で話し合い、提案する流れを作る必要があります、それがこの会議の大きな目的の一つでもあります。

(内藤) 前半に関しては時間がないので意見の反映は難しいですが、8月30日になごみの家の「社会資源の活用」となっています。長島桑川・北小岩が新しく立ち上がりましたので、長島桑川の所長の熊谷さん、北小岩の森さんが担当されます。9月12日が「倫理及び法令遵守」ということで介護ジャーナリストの田中さんが担当されます。

(小川委員長) 7月の障害者福祉なども江戸川区での情報が入らなければ、教科書的なものになってしまいます。江戸川区の施策などの情報提供は入りませんか？

(坂本) 多職種連携研修としているので、現場の人が理解できる内容でなくてはならず、この会議のエッセンスが盛り込まれる必要があります。

(内藤) 前半に関しては時間がない、ということで内容を決定しスタートしてしまっている部分もあります。

(小川委員長) 7月の分に関しては難しいかもしれませんが、次回からお呼びする講師と、どういった流れで決まったのかと、講演の内容を一覧にしてこの会議で話し合えるよう提出して下さい。それがこの会議の主旨なので、会議での内容を盛り込むためにもお願いします。研修後のアンケートも今回のようにまとめていただくとわかりやすいです。

◎次回開催は、平成30年7月26日（木）開催予定